**中間報告書の書き方**

所属コースに応じてヘッダを編集

Information Systems Course

Advanced ICT Course

Information Design Course

Complex Systems Course

Intelligent Systems Course

10xxxxx　未来太郎

指導教員：函館一郎

**How to Write Manuscripts for Midterm Report**

Taro MIRAI

［一行あける］

概要：和文は300から400文字で記述すること．

［一行あける］

キーワード：北海道，函館，亀田中野，公立はこだて未来大学

［一行あける］

**Abstract:** English should be written in 100 to 150 words.

［一行あける］

**Keywords:** Hokkaido, Hakodate, Kamedanakano, FUN

［一行あける，ここまで1段］

**1　背景と目的**

このサンプルは情報システムコースにおける中間報告書の様式について説明したものである．必ずしもこの雛形を使う必要はないが，仕上がりイメージはできる限りこの雛形にあわせること．

用紙サイズはA4，向きは縦とし，上下の余白は30mm、左右の余白は25mmとする．本文には明朝体とTimes New Romanを用いる．ただし，タイトルや章節の見出し，図表のキャプションはゴシック体とする．タイトルは14ポイント，氏名と章の見出しは12ポイント，節の見出しは11ポイント，その他は10ポイントとする．また，和文タイトルから英文キーワードまでは1段，本文は2段で構成とし，1段のセクションは42文字×45行，2段のセクションは20文字×45行とする．

なお，章立てはあくまでも参考であり，これに限らない．

**2　◯◯コースにおける本研究の位置づけ**

中間報告書中のいずれかの場所に，学生所属コースのカリキュラム・ポリシーに基づき，本研究の位置づけを述べる．未来大学のカリキュラム・ポリシー[[1]](#footnote-1)のうち，学生所属コースの項に書かれている卒業研究に関する記述を参照．

**3　関連研究**

中間報告書の文量は4ページとする．学籍番号をファイル名としたPDFファイル１つにまとめた形で作成すること．提出するファイル名はb10xxxxx.pdfとする．

句読点は「，」，「．」とする．「、」，「。」は使用しない．アブストラクトなど英文表記の部分については，スペルチェックプログラムによるチェックをする．

**4　提案する理論**

**4.1　数式**

　数式による記述が必要な場合は，式番号を適切に参照しながらまとめること．

**4.2　図・写真**

　読者の理解を助けるため，図や表を効果的に利用すること．図のキャプションは

図1　○○○○

のように，図の下に記す．表のキャプションは

表1　○○○○

のように，表の上に記す．

**5　実験と評価**

**6　考察**

**7　結言**

**参考文献**

[1] ◯◯△△，システム情報科学会論文誌，2，13-19，2002．

[2] A.B.Cdddddd，J. Systems Information Science，11，1145-1159，2001．

[3] ◯◯××，□□△△，システム情報科学，☆☆出版，1999，20-21．

[4] E.Fggg and H.Ijjj，Electrical Engineering, KKPress，2003，281-284．

1. https://www.fun.ac.jp/curriculum-policy [↑](#footnote-ref-1)